

新潟聖籠病院
今後の事業計画

平成 30 年 8 月 策定

【新潟聖籠病院の基本情報】

医療機関名：新潟聖籠病院

開設主体：医療法人社団 葵会

所在地：新潟県北蒲原郡聖籠町蓮野 5968-2

許可病床数：240床

一般病床 60床

回復期リハビリ病床 60床

療養病床 120床

稼働病床数：240床

一般病床 60床

回復期リハビリ病床 60床

療養病床 120床

診療科目：

内科、外科、脳神経外科、整形外科、眼科

職員数：

・ 医師：常勤 6名、非常勤 10名

・ 看護職員：169名

・ 専門職：49名

・ 事務職員：24名

【 1 . 現 状 と 課 題 】

自 施 設 の 現 状

病 床 数 : 240 床

| | |
|-------------------|-------|
| 一 般 病 床 | 60 床 |
| 回 復 期 リ ハ ビ リ 病 床 | 60 床 |
| 療 養 病 床 | 120 床 |

平成 29 年度の入院患者は 719 名、うち初回の入院は 585 名で病床稼働率は 88%であった。初回入院の 585 名中 75 歳以上の後期高齢者は 427 名で 73%を占め、80 歳以上は 341 名 (58%)、90 歳以上は 108 名 (18%) と高齢者が圧倒的に多数で、平均年齢は 79.6 歳であった。

対象疾患は、脳疾患 20%、廃用症候群 18%、腎不全 16%、呼吸器疾患 13%、悪性疾患 10%、骨疾患 9%と、血液透析治療を施行していることから腎不全症例の割合が多い事以外は、高齢者が罹患する疾患が多数を占めていた。

患者住所は、当院の所在する聖籠町は 24%、新発田市が最も多くて 31%を占め、聖籠町・新発田市以外の下越地区は僅か 4%で、下越地区全体としては 59%であった。また聖籠町に隣接する新潟市北区の住民が 7%含まれ、新発田市、聖籠町、新潟市北区の症例で 62%と 2/3 は近隣の住民であった。

地域医療連携において当院が果たす役割は、1)下越地区の基幹施設である新発田病院での急性期治療は終了したが在宅復帰が困難な症例の自立を支援する事と、2)在宅では介護が難しい高齢者を支援する事を想

定しているが、これらの事情を反映して、新発田病院からの紹介患者が入院患者の28%と多数を占めていた。

入院後の経過をみると、軽快退院 51%、他病院への転院 9%、入院継続中 10%、死亡退院 30%で、約 1/3 の症例は在院中に死亡したが死亡例の平均年齢は 83.3 歳で、53% の症例は平均寿命を凌駕していた。

自施設の課題

職員の確保

現在の常勤医は内科 2 名、外科 2 名、脳外科 1 名、整形外科 1 名の計 6 名である。非常勤医師として、外来および手術を担当する眼科医 2 名、糖尿病外来・循環器外来などの内科関連医 5 名、脳外科 1 名、形成外科 1 名、精神科 1 名と計 10 名で、他に休日の日・当直医として大学病院の医師が勤務している。しかし、常勤医が不足して夜間の対応等が不十分なことから、充足を希望している。

リハビリスタッフは理学療法士 15 名、作業療法士 8 名、言語聴覚士 8 名の計 31 名で管理しているが、回復期リハビリテーション病棟 60 床にも対応していることから職員数の補充が望まれる。

【 2 . 今後の方向 】

地域において今後担うべき役割

新発田病院、新潟大学病院、新潟市民病院等の基幹病院での急性期治療は終了したが在宅復帰が困難にて当院に転院した 364

例中 187 例（51%）は下越地区に住居のある症例であった。下越地区住民 187 例の転帰をみると、33%は病状が悪化して死亡、10%は他院に転院、9%は現在も入院中であるが、90 例（48%）は当院の主たる役割である在宅復帰支援に成功した。

もう一つの役割である在宅では介護困難症例の支援に関して、平成 29 年度聖籠町民の死亡総数 123 名中 24 名（20%）は当院で死亡しており、その平均年齢は 86 歳であった。終末期医療に関して、最期を迎えた場所の 9 割は医療機関または介護施設等と報告されており、当院は聖籠町民全死亡例の 20%を担当したことになるが、今後は更に増加すると考えられた。

今後持つべき病床機能

新潟聖籠病院は現在、一般病床（看護基準 15:1）60、回復期リハビリ病床 60、療養病床 120 と区分されている。厚生省の「地域医療構想に関するワーキンググループ」報告では一般病棟など特定の機能を有さない病棟の取扱は確定していない状況にある。当院の一般病床（看護配置 15:1）は急性期に区分されるより回復期または慢性期に分類されると想定されることから、回復期 60 床 + 慢性期 180 床、または回復期 120 床 + 慢性期 120 床に分類と推定される。地域医療連携における当院の役割からは、急性期治療終了後の在宅復帰支援対象者の回復期 120 床と終末期医療を含む在宅での介護困難対象者の慢性期 120 床が望ましい。

その他見直すべき点
特になし。

【 3 . 具体的な計画 】

4 機能ごとの病床のあり方について
< 今後の方針 >

| | 現在 | 将来 |
|--------|-------|-------|
| 高度急性期 | 0 床 | 0 床 |
| 急性期 | 60 床 | 0 床 |
| 回復期 | 60 床 | 120 床 |
| 慢性期 | 120 床 | 120 床 |
| (合計) | 240 床 | 240 床 |

< 具体的な方針及び整備計画 >

厚労省の地域医療構想に関するWGで「特定の機能を有さない病棟における病床機能報告の取り扱い」が示され、看護配置13:1及び15:1の大部分は回復期と慢性期と変更される。当院の一般病棟は看護配置15:1で将来的には回復期病床として機能すべく企画している。

3階の一般病棟60床から回復期病棟60床への変更を予定しているが、病棟の改修等は不要である。

< 年次スケジュール >

一般病棟から回復期病棟への変更は、厚労省の規定に従う。

診療科の見直しについて
人員を確保した後、診療科としてリハビリ

リテーション科の新設を予定している。

< 今後の方針 >

その他の数値目標について
病床稼働率 90%以上

【 4 . その他 】

特になし